

特別史跡 無量光院跡発掘調査報告書 XVIII

—— 第47次調査 ——

2022

令和4年3月

平泉町教育委員会

特別
史跡 無量光院跡発掘調査報告書 XVIII

—— 第47次調査 ——

2022

令和4年3月

平泉町教育委員会



無量光院跡全景（46次・東から）



46次 調査区全景（西から）



40次 石敷（南から）



33次 築地塀断面（南から）

序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鷄山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧観自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年(1189)九月十七日条の「寺塔已下注文」に、無量光院跡は奥州藤原氏三代秀衡が宇治平等院を模して建立したと併せ、藤原氏の政庁「平泉館」との位置関係が記されています。

無量光院跡は、大正11年に国の史跡に指定されました。昭和27年には、文化財保護委員会(現文化庁)が発掘調査を実施し、『吾妻鏡』の記載が裏付けられるとともに宇治平等院との類似性・相違点が明らかになりました。その調査成果から、昭和30年には特別史跡に指定されています。

当町では、遺跡の重要性に鑑み平成5年から地元の方々のご理解とご協力を得ながら公有化を進め、史跡の恒久的な保存措置を図っております。平成14年度から史跡整備に必要な資料収集を目的とした発掘調査を開始し、その成果を踏まえ平成24年度からは史跡整備工事を開始しました。

本報告書は令和元年10月12～13日に本町を通過した台風19号の影響で崩落した無量光院跡東側土塁の災害復旧工事に先立つ事前調査の内容を収録したものです。調査の結果、令和元年度の46次調査で確認された無量光院跡以前の築地塀や溝跡の続きが断続的に残存していることが確認されました。

特別史跡無量光院跡保存修理事業につきましては、地域住民の方々をはじめ、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会・宗教法人毛越寺に対し深く感謝申し上げます。

令和4年3月

平泉町教育委員会

教育長 吉野新平

例 言

- 1 本書は令和2年度に国庫補助事業より実施した特別史跡無量光院跡第47次調査の報告である。
- 2 野外調査期間は令和2年10月21日から令和2年11月19日までである。室内整理期間は令和4年2月28日までである。
- 3 調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立地内である。調査面積は約75㎡である。
- 4 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

(1) 令和2年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 淵 実

平泉文化遺産センター

所 長	千 葉 登	主 任	鈴 木 理 世
所 長 補 佐	島 原 弘 征	調 査 補 助 員	二 階 堂 里 絵
主任主査文化財調査員	菅 原 計 二	調 査 補 助 員	佐 藤 昌 弘
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	調 査 補 助 員	熊 谷 明 美
文 化 財 調 査 員	鈴 木 博 之	調 査 補 助 員	菊 地 道 子
主 任	佐 々 木 成 淳		

(2) 令和3年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 淵 実 (～令和3年9月30日)

吉 野 新 平 (令和3年10月1日～)

平泉文化遺産センター

館 長	千 葉 登	主 事	鈴 木 理 世
館 長 補 佐	島 原 弘 征	主 任	荻 山 義 浩
主任主査文化財調査員	菅 原 計 二	調 査 補 助 員	二 階 堂 里 絵
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	調 査 補 助 員	佐 藤 昌 弘
文 化 財 調 査 員	鈴 木 博 之	調 査 補 助 員	熊 谷 明 美
主 任	佐 々 木 成 淳	調 査 補 助 員	菊 地 道 子

- 5 発掘調査・室内整理は鈴木江利子、島原が担当し、菊地の協力を得た。事務は佐々木が担当した。
- 6 本書の執筆は、鈴木江利子、島原が担当した。
- 7 遺構の名称については、本書内では次のように使用する。
本堂跡のある島を「中島」、本堂跡の東にある中島を「東島」、本堂跡北側で検出した小島を「北小島」とする。
- 8 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。
- 9 調査成果の一部については、平泉町HP等で公表しているが、本書の内容が優先する。
- 10 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）
宗教学法人毛越寺、文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 11 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。
- 12 発掘調査参加者（順不同・敬称略）
阿部俊春、石川巖覺、石川誠、及川勝、小野寺啓悦、小野寺富子、小野寺友子、春日谷初男、川崎寛、小岩佳丞、佐々木政記、佐々木利雄、佐々木敏治、佐々木直久、佐藤綾男、佐藤潔、佐藤國雄、佐藤彦悦、佐藤参、佐藤正志、菅原久美子、菅原聡、菅原まつ子、菅原有利、鈴木健一、高橋喜一、高橋純一、千條あえ子、千葉一郎、千葉勝也、千葉京子、千葉景姫、千葉セツ子、千葉忠枝、千葉晃久、千葉ナカ子、千葉政志、千葉正行、千葉光春、千葉みよ子、千葉義男、鳥畑恵美子、那須野繁男、真山宗雄、丸山聡子、矢崎木綿子、吉田琴子

目 次

I 位置と環境	1	1 検出遺構	4
II 調査の概要	2	2 調査概要	4
1 調査目的と経過	2	3 出土遺物	8
2 調査方法	3	IV まとめ	8
III 調査の成果	4		

表 目 次

第1表 出土遺物観察表	17
-------------	----

図 版

第1図 平泉町の位置	1	第5図 46・47次調査区	10
第2図 位置図	1	第6図 断面図	11
第3図 無量光院跡第47次遺構配置図	5・6	第7図 無量光院跡東側土塁周辺遺構配置図	15・16
第4図 47次調査区全体図	9	第8図 出土遺物	17

写 真 図 版

写真図版1 47次調査(1)	20	写真図版6 47次調査(2)	25
写真図版2 46・47次調査(1)	21	写真図版7 40・46次調査	26
写真図版3 46・47次調査(2)	22	写真図版8 40次調査	27
写真図版4 46・47次調査(3)	23	写真図版9 33・40次調査	28
写真図版5 46・47次調査(4)	24	写真図版10 30次調査	29

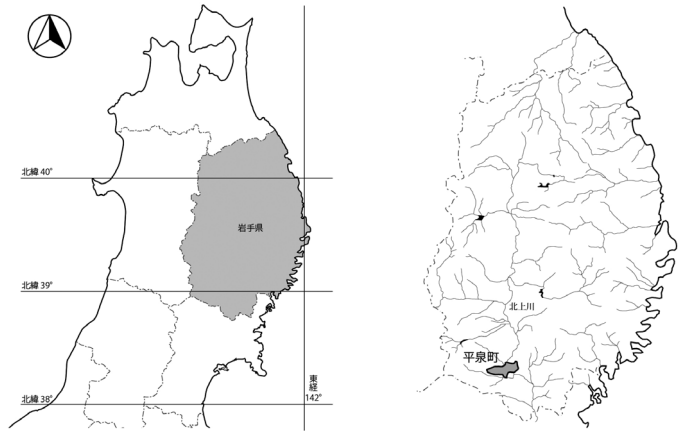
I 位置と環境

1 無量光院跡の位置

平泉町は、岩手県の南部に所在する人口約7,200人、面積約64平方kmの小さな町である。東側は東稲山(595.7m)、音羽山(539m)、観音山(325.2m)が連なる北上山地、西側は奥羽山脈に続く標高100~200m前後の丘陵地に囲まれ、中央部には北上川が南流し、その両側に田園地帯が広がっている。南側は一関市、北側は奥州市に接している。

平泉は、12世紀に奥州藤原氏の拠点として栄える一方、源頼朝によって1189年に滅亡する。その繁栄と滅亡の歴史は、多くの

詩歌を喚起する素材となり、1689年平泉を訪れた俳人の松尾芭蕉をはじめ、多くの文人たちを惹きつけ、往時を偲ばせている。平成23年には町内に所在する5つの史跡名勝が「平泉―浄土を表す建築庭園及び考古学的遺跡群―」として世界遺産登録された。その構成資産の一つとなっている無量光院跡は北上川右岸の町の中心域に所在する。遺跡の中心は、JR東北本線平泉駅から北西に約500m、周辺には水田や住宅があり、鉄道や県道が横断している。



第1図 平泉町の位置

2 無量光院跡の現状

無量光院跡は、奥州藤原氏三代目の秀衡が建立した寺院跡である。南側を除いた三方を土塁で囲まれ、その内側には梵字が池と呼ばれる池跡と、大中小三つの島が(中島・東島・北小島)配置されてい



第2図 位置図

る。また、西側は土塁の外側に沿って堀が設けられており、現在でもその痕跡を見ることができる。境内の規模は、鉄道と県道によって3分割されている関係で分かりにくいですが、南北約320m、東西約240mを測る。

昭和27年に文化財保護委員会（現在の文化庁）が行った発掘調査によって、中島には阿弥陀堂の跡が、東島から3棟の建物跡が確認された（1次調査）。建物は失われたものの、島の礎石は当時の建物の位置や規模を示し、周辺の休耕田部分は「梵字が池」と呼ばれる池の跡として平坦地を形成し、当時の面影を伝えていた。地形から推定される池の広さは東西約140mを測る。しかし、一見すると旧耕田の中に島状の高まりが大小二つ、東西に並んだ状況でしかなく、説明がないと来訪者にはわかりにくい状態であった。

無量光院の中心である中島と東島は、毛越寺の所有地である。池の跡や周辺は寺領ではなく、住宅や水田として使用されていたことから、管理団体である平泉町は鉄道と県道に挟まれた中央部分の住宅地や水田を公有化し、平成24年度からは池跡部分を中心に整備工事を開始した。平成26年度には東島及びその周辺、同27年度には中島、28年度には北小島の整備が行われ、以前に比べて東島・北小島が視認しやすくなってきており、様相は変化してきている。

Ⅱ 調査の概要

1 調査目的と経過

(1) 調査に至る経緯

無量光院跡の東側土塁は平成30年度の整備事業で復元整備されたが、令和元年10月12～13日に本町を通過した台風19号の影響で、東側土塁北先端部分の復元盛土が崩落した（令和元年10月21日付 平文第194号にて毀損届進達済）。

崩落は整備した復元盛土のみで12世紀の遺構面への影響が無かったことは不幸中の幸いであった。崩落した原因はかつて土塁裾にあった鉄筋コンクリート二階建ての建物の基礎掘り方跡に雨水がたまり、裾の復元盛土が液状化したことによるものであった。再発防止のため、土塁外側の平坦面に暗渠を設置することになり、暗渠が遺構面に抵触しないような設計とするため、事前に内容確認調査を実施することになった。

(2) 調査経過

調査は暗渠設置予定箇所に調査区（北・中央・南）を設定し実施した。その結果、令和元年度の調査（46次）で検出した南南西―北北東方向に延びている無量光院以前の築地堀と溝跡（SD2）は、攪乱によって大半が失われていたが、一部断片的に残存していることが確認された。調査成果を踏まえ、暗渠は攪乱によって築地堀や溝跡等の遺構が失われている箇所に設置し、史跡に影響のない形で実施することができた。

(3) 調査履歴

無量光院跡はこれまで、文化財保護委員会・岩手県教育委員会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め47回の調査が行われてきている。調査履歴は『特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVII』（平泉町教育委員会2021）の第1表を参照願いたい。

2 調査方法

グリッド 遺構実測や遺物出土地点の記録等の実測作業の基準として、無量光院跡全域に平面直角座標X系（測地2000）を元に20m四方のグリッドを設定し、それに基づき基準点を打設した。

なお、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。よって、同地震以降に新規設置した基準点に関しては、変動前の数値（測地成果2000）に変換した測量成果を使用し、既存の測量成果との整合性をつけた。

粗掘・検出 攪乱が著しい地点であったため、表土及び攪乱部分は重機で当該層を剥ぎ、層位の確認を進め、鋤簾等で遺構検出作業を行った。

精査 基本的には検出に留めた。今回の調査区は近現代の攪乱が著しかったことから、整地層及び築地塀の調査においては、可能な限り攪乱を利用した断面観察を行うよう心掛けた。

記録 遺構の実測は、平板測量もしくはグリッドを1×1mに分割したメッシュを用いて測量した。遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ（ニコンD90）をメインカメラとし、遺構及び調査全景写真時には、メインカメラに加えて6×7版カメラ（リバーサル）で撮影を行った。

埋め戻し 山砂で遺構面を覆い、その上に調査で掘削した土を埋めた。

普及活動 調査地点は無量光院跡を北西－南東方向に縦断する県道沿いにあったことから、現場は随時公開し調査に支障がない範疇で説明等を行った。調査成果は、「広報ひらいずみ」等で公表している。

参考文献

- 文化財保護委員会1954 無量光院跡 埋蔵文化財発掘調査報告第三
- 平泉町教育委員会1993 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第34集（3次）
- 平泉町教育委員会1995 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第47集（4次）
- 平泉町教育委員会1999 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集（5～7次）
- 平泉町教育委員会2000 平泉遺跡群発掘調査略報 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集（8～10次）
- 平泉町教育委員会2003 特別史跡無量光院跡内容確認調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第83集（12次）
- 平泉町教育委員会2004 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅰ 岩手県平泉町文化財調査報告書第87集（13次）
- 平泉町教育委員会2004 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第85集（14次）
- 平泉町教育委員会2005 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅱ 岩手県平泉町文化財調査報告書第91集（15次）
- 平泉町教育委員会2005 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第92集（16次）
- 平泉町教育委員会2006 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅲ 岩手県平泉町文化財調査報告書第99集（17次）
- 平泉町教育委員会2008 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅳ 岩手県平泉町文化財調査報告書第107集（18次）
- 平泉町教育委員会2009 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅴ 岩手県平泉町文化財調査報告書第109集（19次）
- 平泉町教育委員会2010 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅵ 岩手県平泉町文化財調査報告書第113集（20次）
- 平泉町教育委員会2011 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第116集（21次）
- 平泉町教育委員会2011 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅶ 岩手県平泉町文化財調査報告書第115集（22次）
- 平泉町教育委員会2012 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅷ 岩手県平泉町文化財調査報告書第117集（23次）
- 平泉町教育委員会2013 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅸ 岩手県平泉町文化財調査報告書第119集（24次）
- 平泉町教育委員会2014 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書Ⅹ 岩手県平泉町文化財調査報告書第121集（25次）
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2015 無量光院跡第26次・花立Ⅰ遺跡第30次・花立Ⅱ遺跡第24次発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第631集
- 平泉町教育委員会2015 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第124集（27・29次）
- 平泉町教育委員会2015 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅠ 岩手県平泉町文化財調査報告書第123集（28次）
- 平泉町教育委員会2016 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅡ 岩手県平泉町文化財調査報告書第125集（30次）

平泉町教育委員会2017	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XⅢ	岩手県平泉町文化財調査報告書第127集(33次)
平泉町教育委員会2018	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XⅣ	岩手県平泉町文化財調査報告書第129集(34次)
平泉町教育委員会2018	平泉遺跡群発掘調査報告書	岩手県平泉町文化財調査報告書第130集(35次)
平泉町教育委員会2019	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XⅤ	岩手県平泉町文化財調査報告書第131集(36次)
平泉町教育委員会2019	平泉遺跡群発掘調査報告書	岩手県平泉町文化財調査報告書第132集(37・38次)
平泉町教育委員会2020	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XⅥ	岩手県平泉町文化財調査報告書第133集(40次)
平泉町教育委員会2020	平泉遺跡群発掘調査報告書	岩手県平泉町文化財調査報告書第134集(39・41次)
平泉町教育委員会2021	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XⅦ	岩手県平泉町文化財調査報告書第137集(46次)
平泉町教育委員会2021	平泉遺跡群発掘調査報告書	岩手県平泉町文化財調査報告書第138集(42・43・45次)

Ⅲ 調査の成果

1 検出遺構

暗渠設置予定箇所を対象に調査を行い、溝、築地塀、井戸跡を検出した。ただし、暗渠の位置は46次調査において現代の攪乱が著しい地点を中心に設定したため、調査では想定通り攪乱を中心に確認し、遺構は部分的な確認に留まっている。また、検出位置などは46次調査に加える形で報告する。

2 調査概要

土塁側から道路側に向かう暗渠を3か所に設ける予定であったため、当該部分を対象に調査を行った(写真図版1・6)。46次調査で攪乱が著しい地点を暗渠設置予定箇所に選定したため、重機を用いて暗渠の設置予定位置まで攪乱を除去し遺構の有無を確認することとした。その結果、斜面上位である土塁側は整備工事の際に施した保護砂内に掘削が収まり遺構検出面に抵触しないことを確認した。中央から東側では遺構検出面に抵触する箇所があるため、調査を行い遺構の位置を把握し、暗渠の位置を若干変更する形で遺構保護を図ることとした。調査区は北から北トレンチ、中央トレンチ、南トレンチと呼称することとした。

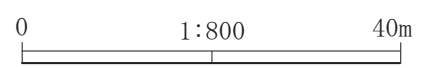
北トレンチ:46次調査で広く攪乱のあったEトレンチ北側の位置に設定した。北西-南東方向に長さ15m、幅は1~1.5mで、中央の南では部分的に2m程拡幅している。北西側は令和元年度整備の保護砂内で暗渠が設置される掘削深度となり、遺構面に支障がないことを確認した。調査中に整備の砂が崩れる恐れがあった事から調査区内側の壁には土嚢を積んで崩落を防いだ。中央では粘土層が検出し、位置的には46次2号溝の箇所である。東端に井戸跡と思われる掘り込みを検出したが、検出面が暗渠には抵触しないことを確認したため部分的な調査に留めた。井戸跡は大半が調査区外に位置する。

中央トレンチ:北トレンチから南に4~8m程度離れた場所に位置する。ほぼ東西方向で、長さ16m、幅1.1~1.5mの調査区である。西(土塁)側は北トレンチと同様に令和元年度整備の保護砂内で暗渠が設置される掘削深度となるため、遺構面に支障がないことを確認した。中央は築地塀を確認したが、検出面が暗渠には抵触しないことを確認したため部分的な調査に留めた。東側は46次Cトレンチと重複するが、同トレンチより0.8m東に拡幅している。

南トレンチ:中央区の南4mに位置し、東西方向に長さ14.5m、幅0.9~2.1mを測る。当初の位置で築地塀を確認し、それを回避するため調査範囲を南に拡大し調査を行った。46次調査では南トレンチとその南側の位置に相当する。東端と西側は46次調査区より拡大しているが、東側は攪乱のみであり、西側は北トレンチと同様に令和元年度整備の保護砂内で暗渠が設置される掘削深度となるため、遺構面に支障がないことを確認した。中央の築地塀の箇所は46次調査で検出した築地塀で遺構保護砂に覆われていた。断面観察を中心に調査を行った。



第3図 無量光院跡第47次遺構配置図



(1) 築地塀 (第4～6図)

中央トレンチと南トレンチで検出した。中央トレンチでは表土下40cm付近で検出しており、暗渠設置に支障ない事を確認したため、横断面の作成に留めた。築地塀は1×0.6m程の範囲で残存しており、表面は版築が施されている様子が伺えた。検出面標高は26.74～27.0mを測り、上位が現代の攪乱などに覆われていた。46次調査との関係であるが、同調査のCトレンチ断面7～8が近く、47次断面13～14の方が広く攪乱で失われている。図を合わせてみると、検出しているのは築地塀の西寄の箇所であることが分かった。

南トレンチでは北壁際において1.2×0.5mの範囲で確認できた。暗渠設置予定深度(現GLから40～60cm下)までの調査としていたため、工事範囲に近い箇所を一部掘削し、断面の確認を行った(断面5～6)。検出面標高は一番高い箇所で27.20m、東端で26.85m、西端は26.94mまで調査を行っている。上面に現代の攪乱が広がっていたため確認できた範囲は小規模ではあるが、東側で版築が部分的に残存し(断面5～6:1～3層)、西側には築地の崩壊土(同4～6層)が広がる様相を呈する。46次調査では南区断面25～26が近く、比較すると同様の状況であることが分かった。

写真図版4では、47次検出の築地塀の周辺を比較検討できるよう46次調査の写真を再掲載した。写真1は46次南西側調査区の状況で、写真2がCトレンチである。写真3は中央トレンチである。写真4は47次検出築地塀に近い箇所の46次築地塀、写真5は47次検出の築地塀を掲載した。

(2) 溝跡 (第4～6図)

今回確認できた溝跡は46次調査の2号溝で、同溝の覆土上位を北トレンチで確認した。中央・南トレンチでは攪乱が深く入っていたため、遺構を確認していない。北トレンチでは覆土上位30cm程、標高約27.0mまで確認している。確認した範囲はトレンチ北壁側の幅1.2m奥行き40cm程度の範囲で、周辺は現代の攪乱や整備時の盛土が広がっていた。北トレンチの断面1～2に近い46次断面9～10と比較すると、東側上位から流れ落ちているにぶい黄褐色ブロック混じりの崩壊土の上に、無量光院造営時に施されたと考えられる灰白色粘土を主体とした整地層が堆積する状況を確認できた。比較検討のため写真図版2では、46次調査の写真を再掲載し、2号溝の位置や状態を示した。写真4・5は47次2号溝の上層部分で、現代の埋土が覆い遺構にもめり込む状態で検出した。形状を整えて、断面を現した。

(3) 井戸跡 (第4～6図)

北区の東端に検出した。完掘していないが、標高26.3m程度まで調査している。表土から1～1.1mの深さである。この深さで西側のみ確認していた井戸壁面を南東隅で確認し、径2m程の円形状を呈することを確認した。埋土中には拳大～頭大の石が投げ込まれており、人為的に埋め戻されている。46次調査で検出している3号溝の北延長上にあるが、溝の堆積状況を示す層位は確認していない。調査中は水が湧き続け枯れることはなかった。

井戸は無量光院造営時の整地層を切って掘り込まれている(断面11-12の1～6層:写真図版3写真3)。この整地層は井戸と西側の攪乱にも切られているため三角状に少し残った状態であったが、ここからは陶器や鉄滓が出土した。また、攪乱からも陶器や鉄滓が出土している。写真図版3の写真1は井戸検出箇所周辺の46次調査での状況を示している。左側が北であり、東西(縦)3本のトレンチのうち一番右が46次Eトレンチで、トレンチの東で47次井戸跡を検出している。また写真2は46次Eトレンチ東側で下の写真5の様に鉄滓や炭が多く出土している。

<出土遺物>かわらけの小片、桃類の種、ふいごの羽口、壁土等が数点出土した。鉄滓は多く出土

しているが、周辺の無量光院造営時の整地層を掘り込んだ際に混入したものが、埋め戻しの際に流入したものである。

(4) その他

中央トレンチでは、46次調査よりも東側に調査範囲を広げ、道路側の堆積状況を確認している。46次調査では近世の道路側溝と考えられる3号溝を検出した箇所である。今回の47次調査では3号溝の検出面まで調査を行っていないため確認していないが、東端に向かい下がる層位を確認している(断面7-8)。3号溝の上部を通り、東に下がる様相を呈することから、溝が掘り直しされた可能性がある。3号溝の浚渫や後続する道路側溝が若干東に寄っていることが想定される。

南トレンチでは、北壁側に一部攪乱を免れた箇所があるが、他はほとんど攪乱の埋め土である。北壁では46次の続きが見えているが、特に遺構は検出していない。

写真図版5では、写真1が46次南東側の状況で北は左側である。写真2は46次、写真3・4・5は47次調査である。写真2が東西方向に開けた46次Cトレンチで、写真3・4が47次中央トレンチである。46SD3は粘土ブロック主体の層の下にあるが、写真3・4のようにSD3まで検出しない高さで止めている。写真5は南トレンチで東側に攪乱が入っている。

3 出土遺物

今回の調査区の大半が46次の埋め戻し土をはじめ、現代盛土中にあったことから、かわらけや陶器などの出土遺物は少ない。**かわらけ**は小片であり、陶器も現代の埋め土や表採からである。**陶器**の1点は無量光院造成時の整地層から出土している(No1)。北トレンチ東の堆積層で、井戸跡と後世の攪乱に切られているが12世紀代の整地層と考えられる。整地層からは陶器の他に鉄滓も出土している。

鉄滓は比較的まとまった量を出土している。100点程度でコンテナ半分程度を占める。大きさは1cm程度から7cm程度で、重さは1gから147gである。大きい鉄滓は5~6cmで、重さが147g、北トレンチの上層埋土中から出土している。鉄滓のほとんどは北トレンチからの出土で、井戸跡からの出土が多い。46次調査では北トレンチの東側の周辺から鉄滓を多く出土しており、その点が共通している。

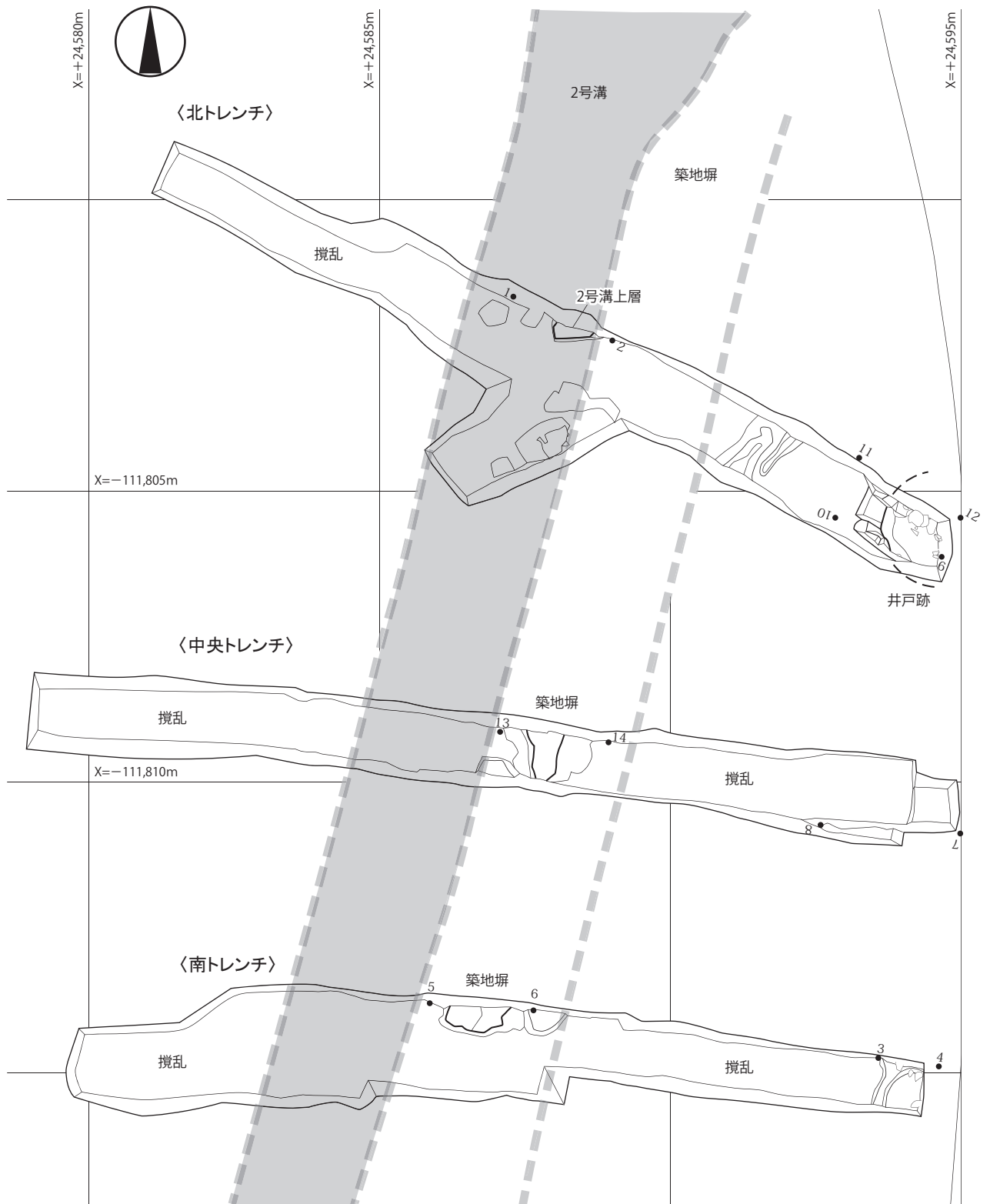
近世磁器は、肥前の染付(No12)が46次の3号溝より上の層から出土している。断面7-8では溝の影響なのか東側に下がった層位を呈している。

IV まとめ

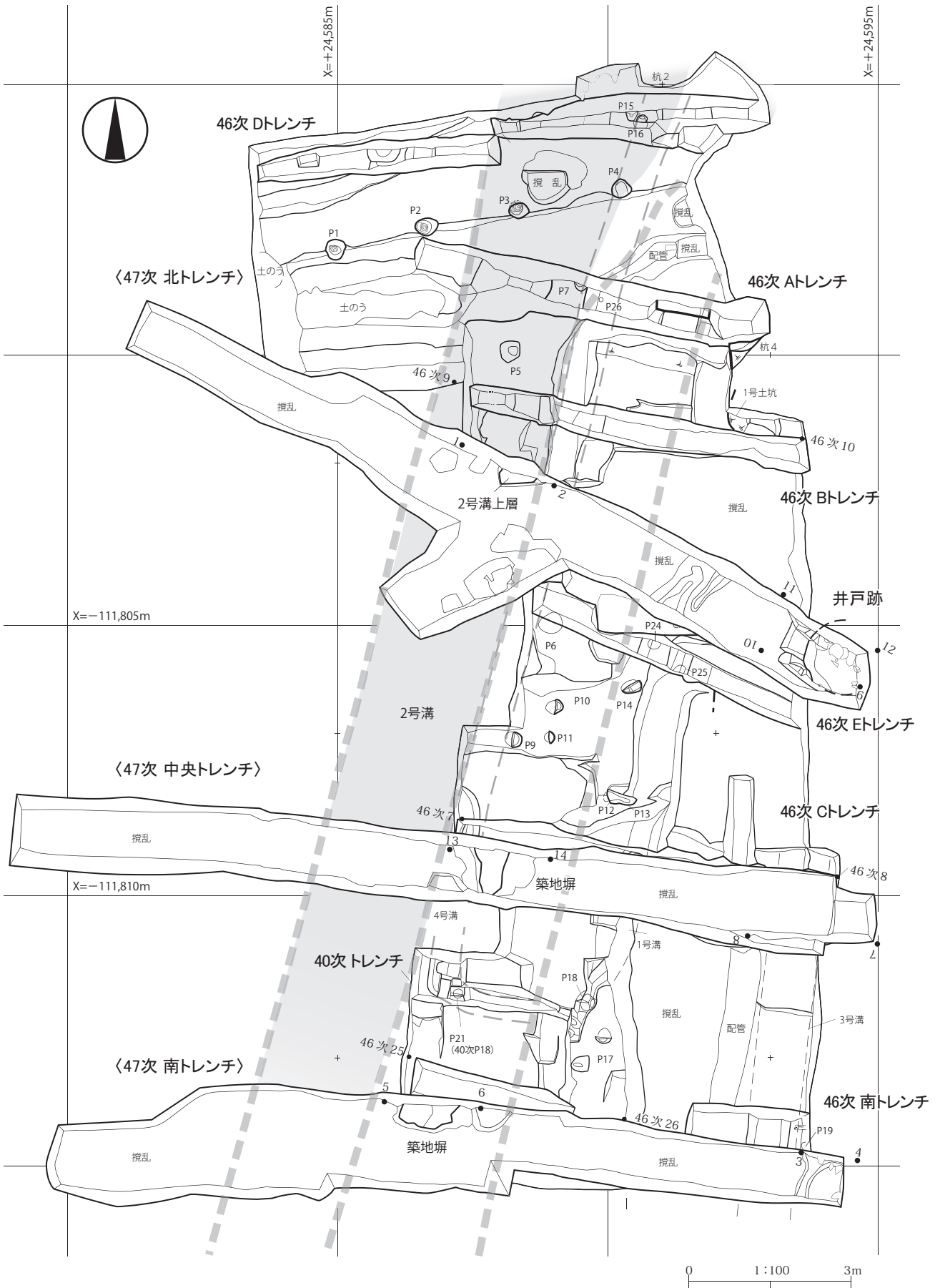
1 47次調査について

今回の47次調査は、築地塀とそれに伴う溝跡を検出した46次調査と同一箇所もしくは隣接地を対象としたが、暗渠の設置予定地に限定した為、部分的なトレンチ調査の様な形となった。成果としては築地塀や溝跡の確認、調査区東側の追跡や井戸跡の検出が挙げられる。

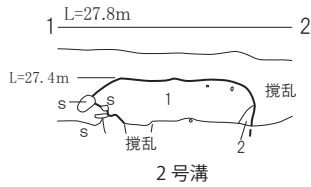
北トレンチでは現在の道路にまで広がる井戸跡を検出した。石を投げ込み人為的に埋め戻した井戸跡と思われ12世紀の整地層を切っている事から、それ以降の井戸跡であることは確かである。ただし、検出箇所は近世以降に道路として土地利用されていることから、現在との区画が異なっている時期に使用された可能性がある。中央トレンチで検出した断面7-8の9・10・11層の様子から近世の道路側溝が東に寄っている可能性が窺える。近世のある時期に敷地が東に広がり、その際に井戸が構築された可能性があり、3号溝より新しいと考えられる。



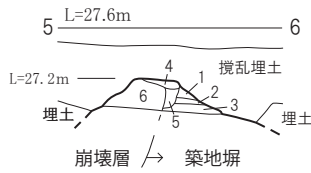
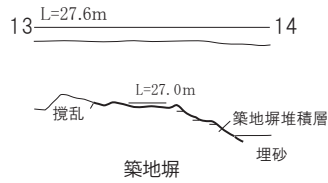
第4図 47次調査区全体図



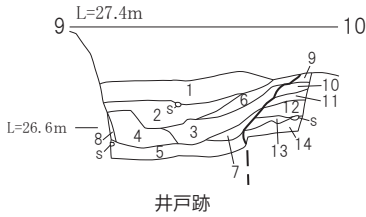
第5図 46次・47次調査図



- 1-2
- 5Y7/2 灰白粘土 2.5Y7/4 浅黄と 10YR6/8 明黄褐粘土ブロック混入 2.5Y6/6 明黄褐砂ブロックなど
 - 10YR5/4 にぶい黄褐

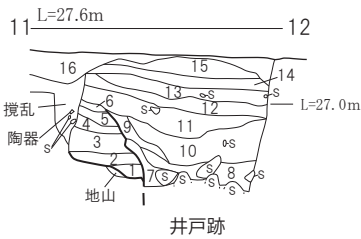


- 5-6
- 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック 2.5Y5/3 黄褐粘土ブロック少量 鉄分含
 - 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロック 2.5Y5/2 暗灰黄粘土ブロック少量 鉄分含
 - 10YR5/2 灰黄褐シルト 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック混入 炭・鉄分少量
 - 10YR5/3 にぶい黄褐粘土 5Y7/3 浅黄粘土と 2.5Y6/3 にぶい黄のシルトと粘土ブロック混入 鉄分含
 - 2.5Y6/4 にぶい黄粘土ブロック 10YR4/3 にぶい黄褐粘土が間に入っている
 - 崩壊層 10YR5/4 にぶい黄褐シルト 2.5Y6/4 にぶい黄と 2.5Y7/4 浅黄の粘土ブロックなど混入する 鉄分含



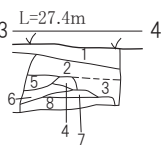
- 9-10
- 2.5Y3/1 黒褐粘土 5Y6/3 オリーブ黄粘土ブロック混入 鉄分含
 - 2.5Y2/1 黒粘土 5Y5/3 灰オリーブ粘土ブロック混入

- 10Y3/1 オリーブ黒 5GY5/1 オリーブ灰粘土ブロック混じる
- 10Y2/1 黒粘土 5GY6/1 オリーブ灰粘土ブロック混入
- 5Y3/1 オリーブ黒粘土 粘性強い
- 4層に似る
- 5Y2/1 黒粘土と 5Y3/2 オリーブ黒粘土が層位状に堆積
- 5Y3/2 オリーブ黒 5Y6/6 オリーブ粘土ブロック混入
- 10YR3/1 黒褐粘土 鉄分・炭少量
- 10YR4/3 にぶい黄褐粘土 10YR2/1 黒粘土少量 鉄分・炭含
- 10YR3/1 黒褐粘土 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック混入 炭含
- 5Y3/2 オリーブ黒粘土ブロック 炭多く含
- 7.5GY5/1 緑灰粘土 炭少量
- 10GY5/1 緑灰砂

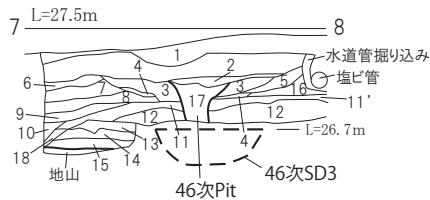


- 11-12
- 最下層 2.5Y4/1 黄灰粘土が筋状に入る層 上下に 5GY5/1 オリーブ灰の砂層がしめる
 - 5Y6/3 オリーブ黄砂 同色粘土混じる
 - 10YR4/2 灰黄褐粘土 炭多く含み堆積する

- ブロック層 5Y7/4 浅黄粘土 鉄分含 間に 2.5Y4/2 暗灰黄粘土が入る
- 10YR4/2 灰黄褐シルト 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック少量 炭含
- 10YR2/2 黒褐粘土 近世の堆積層か
- 5Y3/1 オリーブ黒粘土 2.5Y6/8 明黄褐粘土ブロック少量 炭含
- 2.5Y4/1 黄灰粘土 5Y6/4 オリーブ黄粘土ブロック混入
- 2.5Y4/1 黄灰粘土 2.5Y7/3 浅黄粘土ブロックが筋状に崩れてきているのがわかる
- 5Y3/1 オリーブ黒粘土 2.5Y2/1 黒の粘土ブロックと 5GY6/1 オリーブ灰粘土ブロックなどが混入する
- 5Y3/1 オリーブ黒粘土 2.5Y2/1 黒粘土ブロック混入 鉄分多く含 上位には 2.5Y4/2 暗灰黄砂ブロック含 炭少量
- 10YR3/2 黒褐粘土 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロックと 2.5Y5/3 黄褐の砂ブロックが混入する炭少量
- 2.5Y7/4 浅黄粘土 2.5Y5/3 黄褐と 10YR3/2 黒褐粘土を混
- 10YR6/6 明黄褐粘土ブロック 10YR3/2 黒褐粘土混入
- 2.5Y7/3 浅黄粘土と 10YR6/6 明黄褐粘土ブロックが混じる層 10YR4/3 にぶい黄褐シルトブロックも混じる
- 表土埋土 2.5Y3/2 黒褐シルト 小石と草の根入る

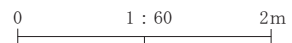


- 3-4
- 表土 10YR4/1 褐灰粘土 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロックと炭などが入る 碎石も入る
 - 2.5Y4/3 オリーブ褐粘土 2.5Y8/6 黄と 2.5Y6/3 にぶい黄粘土ブロック混入 鉄分含
 - 2.5Y4/1 黄灰粘土 5Y5/2 灰オリーブと 2.5Y4/1 黄灰粘土 鉄分混じる
 - 2.5Y3/1 黒褐シルト 5Y6/2 灰オリーブ粘土ブロック混入 かわらけ片、炭含
 - 2.5Y4/2 暗灰黄シルト 炭・鉄分少し含 5Y7/3 浅黄粘土ブロック少量
 - 5Y3/1 オリーブ黒粘土 5GY6/1 オリーブ灰粘土ブロック混入 鉄分・砂少量
 - 5Y3/1 オリーブ黒粘土 10GY6/1 緑灰粘土ブロック少量
 - 7.5Y3/1 オリーブ黒粘土 7.5Y5/1 灰砂と粘土ブロック少量



- 7-8
- 表土 2.5Y4/4 オリーブ褐砂 粘土と石混じる
 - 2.5Y8/4 淡黄粘土と 5Y7/4 浅黄砂などのブロック 10YR3/2 黒褐粘土ブロックなど混入
 - 10Y4/1 灰粘土 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック混入 鉄分・炭含
 - 2.5Y5/3 黄褐砂
 - 5Y2/1 黒粘土 2.5Y6/3 にぶい黄粘土粒と砂混入 鉄分・炭含

- 2.5Y5/1 黄灰粘土 砂含
- 2.5Y4/1 黄灰粘土 2.5Y8/3 淡黄粘土ブロック混入 炭・鉄分
- 2.5Y3/1 黒褐粘土 2.5Y2/1 黒粘土ブロック 5Y7/1 灰白粘土 5Y6/1 灰砂などの粘土ブロック混入
- 2.5Y5/1 黄灰砂 2.5Y3/1 黒褐と 5Y1 黄灰の粘土ブロック少量
- 2.5Y2/1 黒粘土 2.5Y4/1 黄灰砂と 2.5Y5/1 黄灰粘土ブロック混入
- 2.5Y7/2 灰黄粘土ブロック 同砂と 2.5Y4/2 暗灰黄の砂少量 鉄分含
- 10YR6/6 明黄褐粘土 鉄分多い
- 2.5Y3/1 黒褐粘土 2.5Y4/3 オリーブ褐砂多く混入 5Y7/2 灰白粘土ブロック少量
- 2.5Y5/2 暗灰黄砂
- 10YR4/1 褐灰粘土 (~ 3/1 黒褐粘土) 2.5Y7/4 浅黄粘土ブロック少量
- 2.5Y7/2 灰黄粘土 砂・炭少し含 地山粘土小ブロック混入
- 2.5Y3/1 黒褐粘土 2.5Y8/3 淡黄粘土ブロック混入 鉄分・炭含
- 46次 Pit 2.5Y4/1 黄灰粘土 2.5Y7/6 明黄褐粘土ブロック混入 鉄分下位に集中炭少量
- 2.5Y4/1 黄灰砂



第6図 断面図

2 無量光院東側土塁周辺の遺構について

(1) 調査毎の概要

無量光院の整備に伴う調査は46次でほぼ終了となり、周辺遺構のまとめについても46次調査報告書(137集)にあるが、今回図を加える形で報告する。7図は30・33・40・46・47次を合わせた無量光院東側土塁周辺の範囲である。先に調査次数毎の内容について示す。

30次調査:東側土塁が切れている箇所、無量光院の東門跡の有無を確認するため実施した。門跡は未確認であったが無量光院造成に関わる整地や、調査区西寄りの整地層下から大型の溝跡30SD1を検出している。30SD1の東端に隣接してSD2があり、SD1の方が規模が大きく、また新しい(写真図版10写真1)。30SD1の底面からは木製品やかかわらけを始めとする遺物を多く出土し、上層は無量光院造成時に埋め戻されている。軸方向については表の様に想定しているが、遺構上面のプランでの方向であり、誤差は許容されたい。

33次調査:無量光院以前の築地塀を確認した南端に位置する(巻頭カラー2)。12世紀後葉と考えられる無量光院以前の遺構であり、無量光院造営以前に重要施設があったことを示す興味深い遺構である。また、無量光院東側土塁にも調査区を設けて(写真図版9写真5)、土塁の高さ(標高31.05m)や堆積状況の確認もおこなった。宝相華唐草文の瓦が土塁下の掘り込み(写真図版9写真6)の直上から、他の瓦も整地層の下から出土している。この整地層は無量光院造営に伴うものと考えられることから、無量光院以前に瓦を伴う建物があった可能性を示す貴重な資料である。整地層を介在して遺構が多数重複する複数期に渡って土地利用された箇所であった。

40次調査:無量光院東側土塁周辺では特に注目された調査である。(巻頭カラー2・写真図版7・8)無量光院以前の石敷とそれに伴う築地塀が確認された。築地塀は石敷で途切れており、その付近で門跡の可能性のある柱痕や柱穴を検出している。石敷から東側には猫間が淵と呼ばれる低地が広がっているため、区画の内部は西側に広がる可能性を想定している。

石敷の上面には薄い砂の層が堆積し、瓦を多く出土した。この砂の層は東側土塁下にも続き、土塁構築層と構築以前を分けている。また、築地塀の西側では築地に平行する40SD2が確認されている。この溝は石敷と重複しており、溝の部分では石敷が途切れ、溝に縁をそろえる様に石が敷いている様子であったこともあり、当初は石敷と同時期の遺構と考えていたが、46次調査で築地塀と重複し、塀より新しい溝であることが確認されており、石敷と同時期かは流動的な要素を残している。

46次調査:築地塀とSD2追跡調査として40次調査の北側を中心に調査を行った。築地塀は崩壊土層が土塁西(SD2・SD4側)と東側(SD1側)に流れている様子が現れている。SD2はこの崩壊層を掘り込む形で作られていることを確認した。SD2は北側で東の肩が高い状態で確認している。調査区東側下層は砂の堆積があり、鉄滓や陶器等を多く出土している。(写真図版5)

以下、遺構毎に記載し、属性を表に記した。

(2) 築地塀と溝について

築地塀とSD2はほぼ平行し続いているが、堆積状況からはSD2の方が新しい。築地塀の区画後にSD2の範囲がほぼ同箇所において区画したこととなる。

築地塀は石敷の部分で途切れているが、確認した範囲では延長44.5mを測る。軸方向は、石敷より南では概ねN14°Eで、北側ではやや東に傾いてN15°E程度になりそうであるが、周辺の遺構や攪乱に影響されて中心があいまいな箇所もあり、表では幅を持たせて13°~16°としている。石敷付近の東側にある雨落ち溝の方向はN12°~13°Eである。この北延長には46SD1が位置しているが、形状が異なっており、一連の溝になるかは不明である。

築地堀

遺構名	検出長(m)	基底幅(m)	高さ(cm)	方位	検出面標高(m)	基底部標高(m)
46次	19.2	1.2~1.73	20~56	N-13°~16°-E	26.90~27.32	26.51~26.90
40次	8.8	1.75	40~75	N-16°-E	27.15~27.23	26.50~26.60
33次	6.5	柱間1.3、堰板間1.72	65	(N-13°-E)	27.50	27.12
全長・平均	44.5	-	-	N-13°~16°-E	26.90~27.50	26.50~27.10

築地堀西溝

遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
46次SD4	17.0	[30]	-	28~37	N-16°-E	26.70~26.76	26.33~26.48	-
40次SD1	2.7	0.98~1.09	逆台形	35	N-10°-E	26.96	26.60~26.62	-
40次SD5	[3.0]	0.5~0.7	U字状	25~48	N-18°-E	27.15~27.18	26.78~26.90	-

築地堀東溝

遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
46次SD1	3.4	0.38~0.58	浅い皿状	17~25	N-13°-E	26.59~26.93	26.40~26.68	築地堀より旧いか
40次	-	-	-	-	-	-	-	不明
33次	-	-	-	-	-	-	-	不明

雨落溝

遺構名	検出長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	周辺石敷(m)	底面標高(m)	新旧・その他
40次	5.5	0.35~0.40	皿状	12程	N-12°-E	26.68~26.82	26.57~26.62	石敷・溝とも南に下がる

2号溝

遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
46次SD2	7.4	2.2~2.5	逆台形	120	N-14°-E	27.10~27.62	26.06	築地堀より新しいか同
40次SD2	11.8	0.81~1.85	逆台形~U字	72~94	N-17°-E	26.66~27.00	25.94~26.37	築地堀より新しい北側断面U字状
33次SD2	7.0	2.1~2.9	逆台形	76~100	N-18°-E	27.28~27.30	26.52~26.60	築地堀より新しい
全長・平均	43.5	0.81	U字~逆台形	72~120	N-14°~18°-E	26.66~27.62	25.94~26.60	底は北に下がる

無量光院以前の溝

遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
40SD3	6.6	1.05~1.4	椀型	41~60	N-63°-E	26.85~27.13	26.30~26.47	整地下 無量光院より古い 西→東低い
40SD4	3.88	0.93	逆かまぼこ型	32	N-72°-E	27.06~27.10	26.74	整地下無量光院より古い 西→東低い
40SD5	3.0	[2.35]	椀~皿状	62~80	北~南東	27.01~27.22	26.60~26.36	土塁下 無量光院より古い 北→南低い
遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
33SD1	[9.8]	0.8~1.23	逆台形	20~47	N71°W→N13°E	27.53~27.81	27.10~27.34	-
33SD3	[7.8]	0.23~0.5	皿状	9~19	N-33°-E	27.75~27.92	27.67~27.71	-
33SD4	[1.5]	1.0弱	皿状	最大35	N-40°-E	27.17~27.25	26.20~27.78	-
遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
30SD1	[10.5]	[2.45]~[2.51]	逆台形	110~112	N-7°-E	27.50~28.13	26.40~26.42	遺物多い
30SD2	[11.1]	1.2~1.24	半円形	51~53	N-9°-E	27.41~27.95	26.90~26.92	SD1より古い

近世道路側溝

遺構名	全長(m)	幅(m)	断面形	深さ(cm)	方位	検出面標高(m)	底面標高(m)	新旧・その他
46次SD3	6.0	0.9	逆台形~椀型	32~37	N-6°-E	26.70~26.75	26.38	平坦
40次SD6	2.7	0.6~1.0	椀~皿状	14~40	N-1°-E	26.42~26.45	26.42~26.45	北→南低い
33次SD6	1.4	[1.2~1.8]	逆台形	50~67	N-5°-E	27.03	26.36~26.53	南→北低い

SD2は33次から46次まで検出しているが、軸方向は概ねN16°Eである。無量光院との関係では東側土塁構築に伴う整地層によってSD2が覆われており、無量光院以前の溝である。

無量光院本堂（阿弥陀堂）の軸方向はN7°～8°Eで、東島の建物、橋や舞台の方向は、本堂と同一方向である。ただし、24次調査では本堂の礎石下から方向の異なる遺構を検出している。板状の粘板岩を配列した遺構で、検出距離は1.2m、軸方向はN15°Eを示している。検出状況から無量光院以前の遺構と考えられており、築地塀やSD2に近い軸方向を示している。また、この軸線は白山社参道の軸線と同じであり、それとの関連性が窺える。

（3）池底の掘り込み

22次池底の調査では帯状の掘り込みを検出している。軸方向は東に10°～20°傾いており、無量光院の軸線とは異なっている。また、東側土塁周辺で確認された無量光院以前の遺構とも軸方向は異なっており、関連性が見えない状況である。また、22次調査では東側土塁に近い池底から井戸跡や土坑跡が検出している。検出標高は27.55～27.65mで池底の掘削によって低くなっている可能性がある。おそらく柱穴や溝等の浅い遺構は無量光院造営時に消失しているものと思われるが、無量光院以前の土地利用の一端が垣間見える資料である。

（4）現在の地形と異なる傾斜

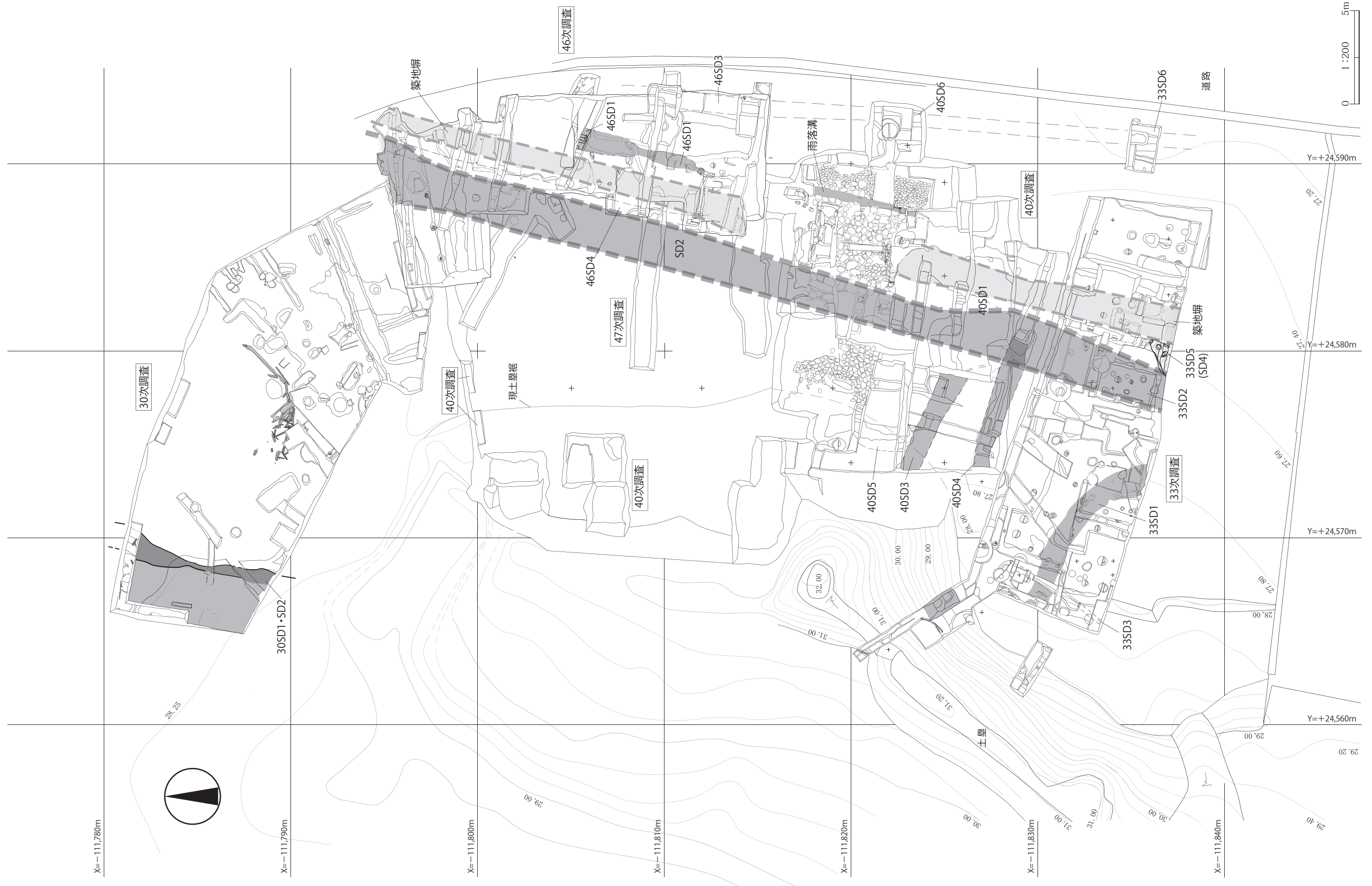
無量光院の池や周辺土塁の地形は当時の様相を伝えているが、基本的には北西から南東に向かって下る自然地形に手を加えた様相を現代に残している。しかし、SD2の底面が南から北に下る様相を呈し、北から南に傾斜する現代の水路や道路などの周辺地形とは逆方向を示していた。周辺地形の傾斜と異なる傾斜に違和感をもったので、周辺の地形や標高について、無量光院以前の状態を確認してみた。

無量光院造成前の東側土塁周辺は、前述の石敷や土塁下に薄く入る砂や暗灰黄層を挟んで無量光院の前後を大別できる。30次調査区では、この層がSD1周辺で確認できなかったが、地山が検出しているためここで分けている。地山面は27.3～27.5mと南がやや低くなっている。この延長で、南の40次土塁造成前の面は27.6m、石敷の延長土塁下は27.4m、33次では27.8mであった。部分的な抽出ではあるが南側の方が20～25cm程度は高いが、石敷の周辺がやや低くなっている。築地塀から東側では、40次の石敷き周辺で26.7～26.75m程である。南の33次では26.8m、北側の46次では26.6mで、北側が低いことが分かった。この結果から、現在は東や南に下がっていると思われた地形が、東には下がっているものの南ではなく北側に向かって低いことが影響し、溝の底面が北に向かって低くなっているものと思われる。

北延長には無量光院の池（梵字が池）尻があり、現在も池の水には北東にある猫間が淵跡に流れている。

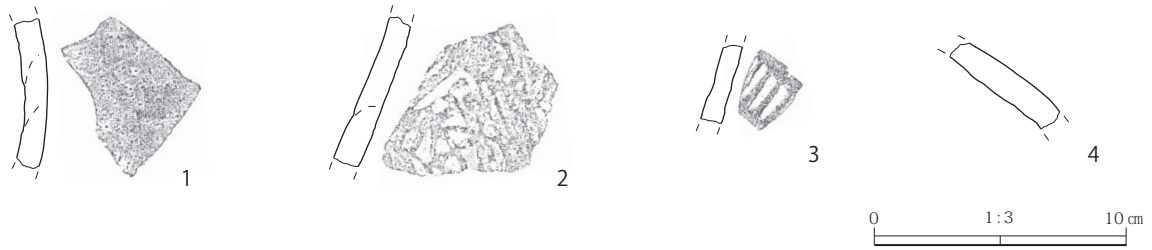
（5）出土遺物

12世紀が主体ではあるが、表土や攪乱からも出土している。鉄滓や羽口が多く出土する傾向があり、12世紀のこの周辺に工房があったことが窺える資料である。また、瓦が比較的多く出土することも特徴の一つであることを付記しておく。

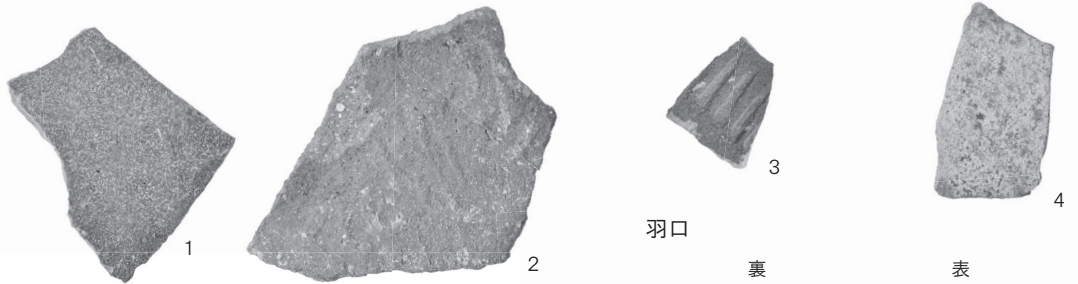


第7図 東側土塁周辺遺構配置図

国産陶器



国産陶器



近世国産磁器



第8図 出土遺物

第1表 出土遺物観察表

国産陶器

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
1	8	8	北トレンチ東側 堆積層	常滑	甕	胴部	12 c		32-2
2	8	8	表土採取	常滑	甕	胴部	12 c	複合押印 I b	49
3	8	8	北トレンチ東側 現代埋土	渥美	甕	胴部	12 c	押印	3-2
4	8	8	北トレンチ東側 現代埋土	渥美	甕	肩部	12 c		4

土壁

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量(cm)			重量(g)	スサの有無	備考	登録No
				長さ	幅	厚さ				
5	-	-	北トレンチ 井戸跡	2.1	1.9	1.5	4.3	有		20-4

羽口

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	法 量(cm)			重量(g)	備考	登録No
				長さ	幅	厚さ			
6	-	-	北トレンチ東側	5.0	5.2	0.7	30.2	丸瓦片の可能性	5
7	-	-	中央トレンチ東側	3.2	3.2	1.6	11.3		14-2
8	-	-	北トレンチ 井戸跡	2.8	2.8	1.1	80.1		24-3
9	-	-	中央区東側 黒粘土～砂層	1.8	2.1	1.0	2.1		25-5
10	-	-	北トレンチ東側 堆積層下層 (黒褐粘土～砂)	2.6	2.6	1.6	12.7		32-5
11	-	8	北トレンチ 井戸跡	5.8	4.1	1.8	27.7		47-2

近世国産磁器

No	図版	写真 図版	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No
12	-	8	中央トレンチ東側	磁器	皿	底～口縁部	17c前	肥前 染付	6・7

写真図版





1. 調査区全景（東から）



2. 北トレンチ西側検出状況



3. 北トレンチ検出状況



4. 南トレンチ検出状況（南東から）

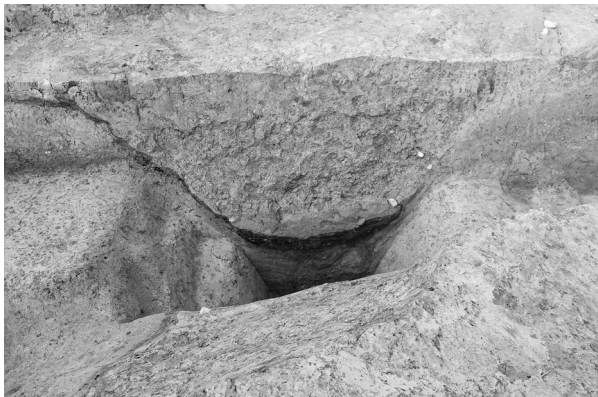


5. 中央トレンチ検出状況

写真図版1 47次調査（1）



1. 46次 北側の状況



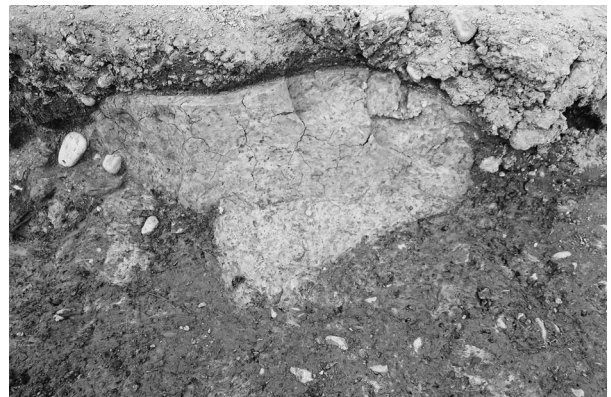
2. 46次 Aトレンチ2号溝 (南から)



3. 46次 Bトレンチ2号溝 (南上から)



4. 47次 北トレンチ2号溝埋土検出状況



5. 47次 北トレンチ2号溝精査状況

写真図版2 46・47次調査(1)



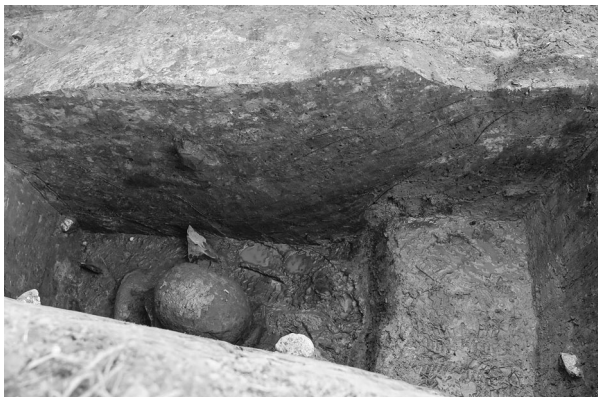
1. 46次 中央全景



2. 46次 Eトレンチ東側（南から）



3. 47次 北トレンチ井戸跡断面（南から）



4. 47次 北トレンチ井戸跡断面（北から）



5. 46次 Bトレンチ東側鉄滓出土状況

写真図版3 46・47次調査（2）



1. 46次 南西側全景（西から）



2. 46次 Cトレンチ築地塀（南から）



3. 47次 中央トレンチ築地塀検出状況（南から）

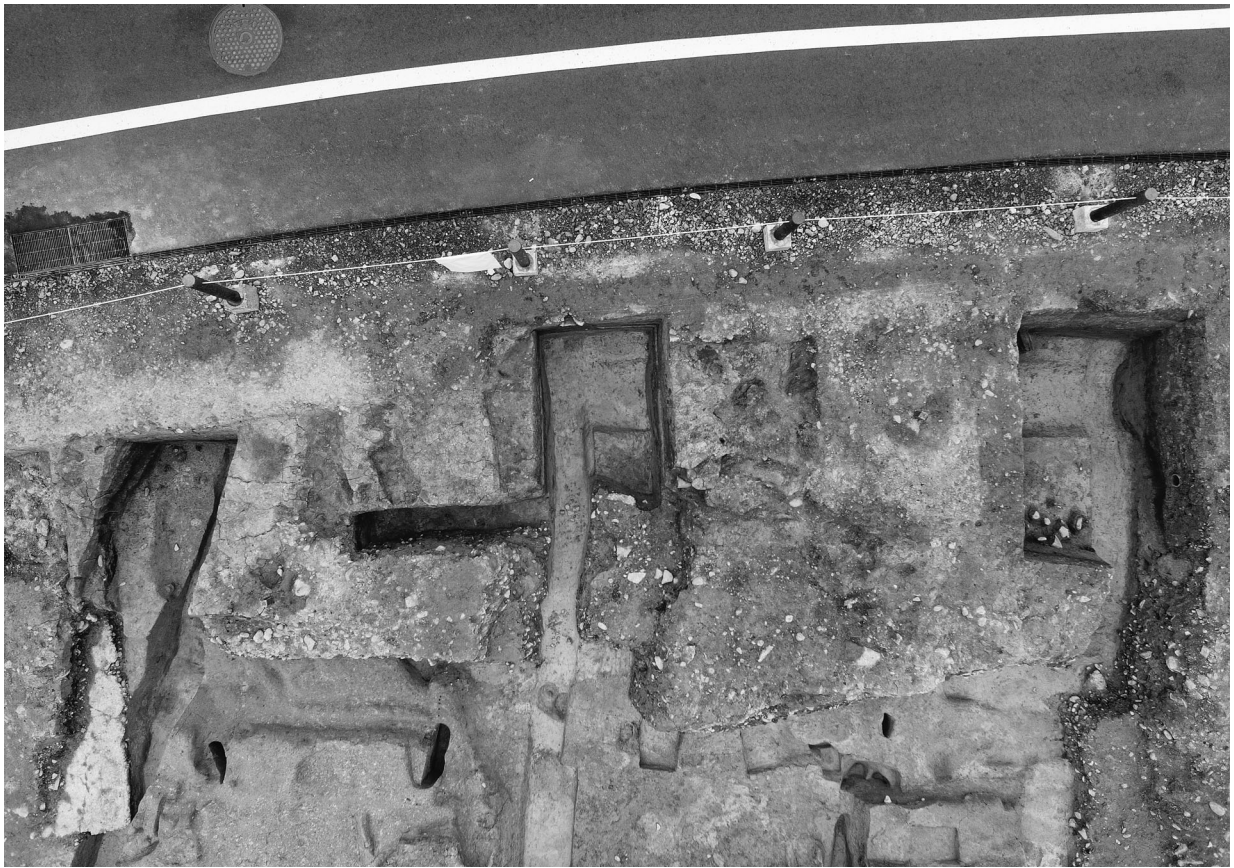


4. 46次 南トレンチ築地塀（南から）



5. 47次 南トレンチ築地塀（南から）

写真図版4 46・47次調査（3）



1. 46次 南東全景（西から）



2. 46次 Cトレンチ東側3号溝（南から）



3. 47次 中央トレンチ東側（南から）



4. 47次 中央トレンチ断面7-8



5. 47次 南トレンチ東側（南から）

写真図版5 46・47次調査（4）



1. 47次 調査区全景（西から）



2. 令和元年台風19号の被害状況（南東から）



3. 47次 調査区全景（南から）



4. 暗渠設置状況（西から）



5. 土塁復旧状況（南から）

写真図版 6 47次調査（2）



1. 46次 調査区北側（南西から）



2. 46次 調査区全景（南から）



3. 46次 Eトレンチ築地塀（北から）



4. 40次 2号溝（北から）



5. 40次 北側築地塀（北から）

写真図版 7 40・46次調査



1. 40次 調査区全景（東から）



2. 40次 1号溝（北から）



3. 40次 雨落溝（南から）



4. 40次 3号溝（東から）



5. 40次 4号溝（東から）

写真図版8 40次調査



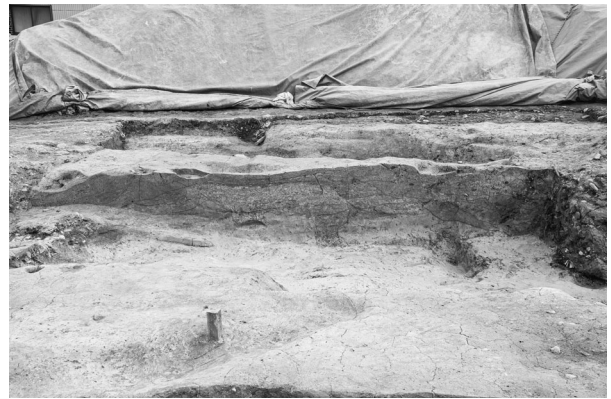
1. 33次 調査区全景（南東から）



2. 33次 築地堀（南から）



3. 33次 2号溝（南から）



4. 40次 築地堀（北から）



5. 33次 東土塁（南東から）



6. 33次 土塁下溝状（南から）



7. 40次 土塁調査（東から）



8. 40次 土塁堆積状況（北から）

写真図版9 33・40次調査



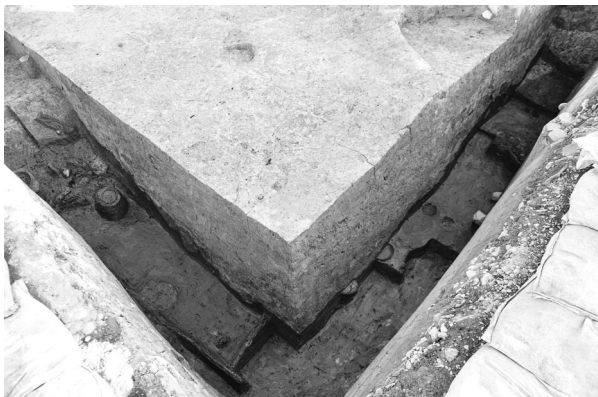
1. 1・2号溝



2. 全景（南西から）



3. 1号溝遺物出土状況（南から）



4. 北西角トレンチ（北西から）



5. 北トレンチ（西から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	とくべつしせきむりょうこういんあとはくつちょうさほうこくしょ							
書名	特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XⅧ							
副書名	第47次調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第140集							
編著者名	島原弘征 鈴木江利子							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話(0191)46-2111(代)							
発行年月日	西暦2022年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
むりょうこういんあと 無量光院跡	いわてけん にしいわいぐん 岩手県西磐井郡 ひらいずみちょう 平泉町 ひらいずみあさはなだて 平泉字花立地内	03402	NE76-1007	38° 59' 33"	141° 07' 02"	20201021~1119	75m ²	災害復旧 工事に先 立つ内容 確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
無量光院跡	寺院	12世紀	整地層 築地塀 溝	かわらけ 国産陶器 羽口 土壁 鉄滓 植物遺体				
要 約	<p>無量光院跡東側土塁北先端部分の災害復旧工事に先立ち、遺構面へ影響の有無を確認するために実施した内容確認調査である。</p> <p>調査の結果、令和元年度の調査(46次)で検出された南南西―北北東方向に延びている無量光院跡以前の築地塀と溝跡(SD2)が攪乱によって大半が失われていたが、一部断片的に残存していることが確認された。調査成果を踏まえ、暗渠は攪乱によって築地塀や溝跡等の遺構が失われている箇所に設置し、史跡に影響のない形で実施することができた。</p>							

岩手県平泉町文化財調査報告書第140集

特別史跡無量光院跡発掘調査報告書ⅩⅧ

—第47次調査—

印刷 令和4年3月20日

発行 令和4年3月31日

編集・発行 平泉町教育委員会

〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2

電話 (0191) 46-2111 (代) FAX (0191) 46-2015

印刷 川嶋印刷株式会社

〒029-4194 岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21

電話 (0191) 46-4161

